

藤波こども園

園長だより

No.59

令和2年5月25日
文責 竹原 篤



FUJINAMI
KODOMOEN

旧 藤波幼稚園 現 藤波こども園



新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、令和2年度の始業式は3密にならないように各ホームで行いました。しかし、子どもたちにとっても保護者・家族の皆さんにとっても大きな意味を持つ入園式ができていません。入園式につきましては、こども園が再開できる



る初日(6月1日)に乳児・幼児の二部制で行う予定をしています。長い間お待たせしました。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、子ども園や小中学校が休園・休校になっています。保護者の皆さんも子どもたちと過ごされる時間が多くなられたことと思います。日頃はゆっくり見られなかった我が子の良い所や気になるところが共に過ごす時間が増えたことでよく見えてきたことと思います。家ではつい叱ってしまうことが多いかもしれませんが、褒め方はどんな方法でもよいと思います。子どもの良さを見つけたらすぐに、そして相手より下になって、つまり相手を上にして、褒める人が下から褒めてあげてください。①よさを見つける。②いい所を具体的に言う。③数秒間の沈黙。④こちよいい気持ちを伝える。⑤同じことをするように言う。⑥終わりの合図。この5つの行動を具体的に言うと、子どもがゴミを拾ったとします。「あっ、今ゴミ拾ったやん。誰も見ていない所でゴミ拾うなんてすごいやん。」と言って数秒間の沈黙。今とっても気分がいい。口で言わなくても「むちゃくちゃ気持ちええわあ〜。」という気持ちを沈黙で表現する。そしてその後、「これからもあなたがいいことをしたら褒める。あなたも友だちのいい所を見つけて褒めてあげて。」と言って抱きしめたり、年齢によっては肩をポンと軽くたたいたり、握手をしたりする。それが終わりの合図。褒めるのに一分もかかりません。でもこの時の心地よさは一生続きます。50歳近くになる卒業生が小学校の時の担任や母親の何気ない褒めことばとその時の気持ちを今も話してくれます。褒めるのはいつほめてもいいと思います。「いつでも、どこでも、何回でも」褒めてあげていい。では、いつ叱ればいいのでしょうか。箸がこけても叱っていたのでは、親も疲れますし、叱られる方も慣れてきます。「また、言うてるわ。はい・はい・はい・はい・・・。」いつもいつも叱っていたら効果がなくなってしまいます。叱る時は、「命と人権」に関する時、と決めましょう。この「命と人権に関する」ことがあった時は教師生命をかけて叱りました。人間として許してはいけない時です。子どもは冗談で、「ほんまやあって。嘘やったら、死んだるわ。命かけたるわ。」そんな時は、「君の命はそんなに安いもんや違う。そんなことお母さんが聞いたらなくて。」と。命を軽々しく扱ってほしくない、そんな思いを子どもたちに知らせてきました。人を傷つける態度や言葉、見逃してはいけません。見逃さないためにも大人は常に自分自身の人権感覚を磨いておかなければならないと思います。



次に「叱り」ながらも「ほめる」ことが大切です。クラスにやんちゃな子どももいました。ある日その子どもが喧嘩をして腹が立って鉛筆をボキボキにおりました。担任から注意を受け、さらに担任はその鉛筆の持ち主である私に謝らせようとして、私のところに連れてきました。そこで担任に「指導は済んだのですね。」と確認しました。「君は自分が悪いことをしたと分かったのですね。担任の先生の言われることは分かったのですね。」と。それを確認してから、担任の先生に「少し子どもと話をさせてください。」と言って二人になりました。子どもは目が点になっています。私に叱られる・・・って。そこで私は「よう。鉛筆で辛抱してくれたな。今までの君だったら、相手を蹴っていたやろ。よう鉛筆で辛抱してくれた。ありがとう。でもな、あの鉛筆 先生が卒業生の初月給からもらった大切な鉛筆やねん。次からは、物も大切にしてくれると先生は嬉しいな。」と話しました。子どもにしてみれば、怒られるって思っていたのに褒められた訳ですから、ちょっと拍子抜けしたかもしれません。でも、部屋を出るときは、神妙な顔ではありましたが、穏やかな顔をしていました。これが「叱り」ながらも「ほめる」ことだと思います。担任から注意を受けているのに、また、僕から「これでもかこれでもか」と叱り続けられる。このことが本当に子どもの心にひびく方法なのか、と思います。人を傷つけず、物にあたる。善いこととはいえませんが、それを逆手にとって「よく物で辛抱してくれた」と褒める材料にしていく、発想の転換が必要ではないかと思うのです。「叱り」ながらも「ほめる」ことを考えていく方が、子どもの心に届き、それが優しさにつながっていくのだと思います。

🌸 ありがとうございます 🌸 【いただきました】

① きんちやく

中野 清水様より

② 花まつりのおさがり

青柳仏教会様より

③ 野菜の苗

四津川 早藤様より

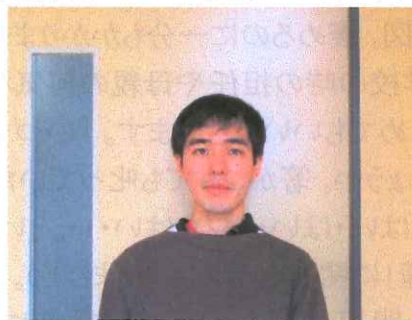


退職のお知らせ



安原彩未先生

先生は平成17年4月1日から令和2年3月31日まで本園に勤務していただきました。先生はいつも笑顔で子どもたちに優しく声かけをしてくださいました。この度お家の都合でご退職されました。本当に長い間お世話になりありがとうございました。



大石夏生先生

先生は平成25年1月22日から令和2年5月22日まで本園に勤務していただきました。先生は子どもたちとクワガタや蝶々を幼虫から育てたり園庭にいる虫の名前を教えてくださいました。子どもたちから昆虫博士と呼ばれるくらいでした。本当に長い間お世話になりありがとうございました。